



## 理念

高齢期の方々の尊厳を踏まえ、こころ温まる医療の提供と地域から愛される病院を目指します。

## 基本方針

- ① 認知症疾患の特性を踏まえ、個別性の高い医療と温かみのある療養の提供
- ② 認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
- ③ 地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
- ④ 働きがいのある職場づくり
- ⑤ 職員一人ひとりが自覚し、健全な病院運営への努力

## 患者様の権利に関する宣言

- ① 良質な医療を平等に受ける権利
- ② 選択および自己決定する権利
- ③ 意識のない患者様および法的能力のない患者様の権利
- ④ 十分な説明を受ける権利
- ⑤ 個人情報およびプライバシーを保護される権利
- ⑥ 個人の尊厳を守る権利
- ⑦ 通信・面会を自由に行う権利

## INDEX

- 表紙 福井の名所探訪③⑥  
荒島岳(大野市)
- P2 すこやか講座  
「認知症の方とのコミュニケーション」
- P3 家族は今  
「苦しかった日々から…  
今現在の私の心」
- P4 THE病棟 すこやか祭
- P5 デイ・ケアだより
- P6 トピックス  
認知症看護認定看護師  
実習受け入れ
- P7 講演会報告  
病院(デイ・ケア)見学会
- P8 研修案内  
平成30年度研修案内



# すこやか講座

## 認知症の方とのコミュニケーション

### 認知症の方の気持ちを考えてみよう!

例えば、あなたの家に知らない人がいます。その人はあなたが普通に生活しているのに突然怒ったり、外出を止めたりします。その後、何人もの知らない人が家に入出入りするようになり、住み慣れた我が家なのに落ち着きません。そんな状況のとき、気が付くとあなたは全く知らない場所にいます。周りにはまたしても知らない人ばかりで、トイレの場所も玄関の場所もわからない。不安に思っていると突然、知らない人が話しかけてきて、トイレやお風呂に誘われてしまう。

上記に挙げた感覚は認知症の方が感じているであろう不安のほんの一部です。認知症介護の基本として「受容」「共感」「傾聴」が挙げられますが、認知症の方は**根本的に強い不安を抱えている可能性が高い**ということを理解した上で、その言動を受け止めてあげてください。

### 会話がうまく通じないときのコミュニケーション方法は?

介護者が認知症の方の気持ちを一生懸命汲み取ろうとしても、言葉でのコミュニケーションが難しい場合があります。また、認知症の方が話している言葉自体が聞き取れないということもあります。介護者が「きちんと聞いている」ということを伝えないと、相手を怒らせてしまったり、認知症の症状がさらに強く出てしまうこともあるのです。そうなるとますますコミュニケーションがとりづらくなってしまいます。しかし、最初から最後まで真剣に聞いてはこちらも疲れてしまいますよね。そういう場合は、上手に聞き流しながら、「ちゃんと聞いてますよ」というメッセージを相手に伝えるスキルを身につけましょう。ポイントはふたつです。①**相手の表情、口調に合わせましょう**。怒っている、困っている表情をしていたら、まずは自分もそれに合せます。そこから相槌をうちながら、だんだんと穏やかな表情・口調に戻していきます。②オウム返しです。言葉を全て真似するのではなく、**語尾だけ、あるいは聞き取れる部分だけ繰り返します**。この2つを意識することで、相手に「気持ちを分かっているよ」「聞いてますよ」と伝えることができます。できるときに少しずつ取り入れてみてください。相手も少しずつ落ち着いてくるのがわかると思います。

認知症の人と接するときには大切なのは**みなさんの心が穏やかであること**だと考えます。介護には大変なときや辛いときがあります。そんなときに相手の言動をそのまま受け止めたり、心から共感することは簡単なことではありません。疲れたときは一度体の力を抜いて深呼吸してみてください。常に気を張らず、自分のできるときに簡単なリフレッシュタイムを作りましょう。



# 家族は今…



## 「苦しかった日々から…今現在の私の心」

N・H

アルツハイマー認知症と言われ、目の前が真っ白になりショックを受けました。主人は、真面目で、職場でも努力をし、昇格し職員のトップの位置までになりました。退職をしても町内や地区の会長、防犯隊長と色々とお役をさせて頂き、身体を使って動き回っていました。そんな主人が「なぜ」「なんで」「どうして」という心が非常にありました。

初めは物忘れが多く、何回となく一緒な事を聞いたりしており、ああ年をとったから物忘れが多くなるわと思っていたぐらいでした。病院へ行くのも抵抗を感じました。なぜかと言うとこの病気は悪いと思っていたので待合室で待っているのが非常に嫌でした。知っている人がいないやろか…とビクビクして隅っこで下を向いて順番を待っているという状態でした。この病気になっている事を隠しておきたいと思う気持ちが強く、何とか少しでも元気になって欲しいと、あの手この手と考え、天気の良い日は少し遠い所で散歩したりコーヒーを飲みに行ったりしました。しかし変化がなく、もうこれ以上どうすればいいのだろうと非常に悩み、とても苦しい毎日でした。会話はトゲトゲしくなり、イライラ、カッカと怒ったり、そんな事何で出来ないのとか、何回も聞かないでとか私が暴言を吐くと頭に響いて少しでも元気になるのかと思いながら行動していました。

私はストレスをいっぱい抱え込み、私自身の病気も悪化し最悪の状態になってしまいました。身も心もズタズタで顔は生がなく暗く痩せこけて、死を何回となく考えるようになりました。そんな姿を見た友人から「もう家では駄目やで、デイサービスを利用しては？」と言われました。しかし未だ隠したいと思う気持ちがあったので悩みました。でも自分が倒れたらそれこそ大変だと思い、デイサービスを利用する事に決めました。次第に、話し声がやかましいと怒ったり、足をドンドンとする事が多くなり、かかりつけ医に相談すると、本人の気持ちをこちらが分かっていないから…だから新婚時代の事を思い出し受け入れるようにと言われました。そんな事出来ないとその時は思いました。その後、すこやかシルバー病院に入院することになりました。院長先生はじめ、スタッフ全員の方々の笑顔と、思いやりを持って関わって下さる、その姿に私はとても感動しました。

お陰様で自分の時間が取れるようになり、認知症セミナーや、研修会、家族会と積極的に参加しています。お話を聞いて、この病気の事を知り理解し、そして本人も辛いという事に気づきました。本当に主人に対して申し訳なかったなあと心から反省しました。その心を大事に主人と話をしています。スタッフの皆さんは「否定しない」「よく話を聞いている」「受け入れている」そんな行動を見て、こんな風に接するのだなあと少しずつですが努力しています。今まで否定し、怒ってばかりいた自分の言動が、主人を良くするどころか反対の事ばかりしていたのだと、気づきました。今は多くの方々のお陰で、私の心は前向きで主人と笑顔で寄り添いながら1日を大事に過ごしています。

# The 病棟

## すこやか祭

10月25日すこやか祭が開催されました。しみずこども園の皆さんが、歌や手遊び・踊りなどを披露しに来て下さいました。最初は、患者様と園児の皆さんが、お互いに緊張した面持ちでしたが、時間が経つにつれ、表情が和らぎ笑顔がみられてきました。中には、感動して涙を流す患者様もおられました。



挨拶したあとに、元気いっぱい歌をうたってくれました



楽しいふれあいもありました



ずいずいずっころばし〜♪

## 楽しい時間をありがとうございました。



肩のたたき合いっこもしました



国体で披露した踊りも見せてくれました





# デイ・ケアだより

## 11月 寿司バイキング

11月1日が寿司の日であることに合わせ、11月14日に寿司職人さんに来ていただき、寿司バイキングの行事を行いました。職人歴半世紀以上の職人さんが目の前で寿司を握ると、その素早い手つきに、利用者様からは「すごいなー」「あんなん、できん」と驚きの声。出来上がった寿司も「美味しい」と、皆さん次々とおかわりされていました。



いっぱい  
食べちゃう☆



握るのも速いな〜

## 年賀状作り

一人一枚、家族様宛てに年賀状作りを行いました。普段お家の中では若い世代の方が年賀状を出していて、もうずいぶん自分で書いていない、という方も中にはいらっしゃいましたが、華やかに色を塗ったり、一言メッセージを書いたり、皆さん丁寧に取り組んでおられました。



なんて書こうかしら

## 12月 お正月飾り作り

しめ縄に飾り付けをして、お正月飾り作りを行いました。台紙の色や飾り等、一人一人自由に選び、素敵な作品ができあがりました。2019年も良い一年となりますように。



どこに飾りをつけようかな



みんな素敵〜!

## トピックス

# 認知症看護認定看護師 実習生を受け入れました！

当院は県内の認知症医療の中核機関として認知症に関する介護教育事業に力を入れており、その一環として、学生実習の受け入れを行っております。今年も、昨年に引き続き、石川県立看護大学キャリアセンターの認知症看護認定看護師教育課程臨床実習の実習生5名が、11月5日から12月7日まで当院において実習に取り組みました。実習を終えての感想を幾つかご紹介します。



認知症看護において中核症状が生活にどう影響しているのか、認知症の人にとってどのような不都合があるのかを考え実践を行っていくことが重要だと実感することが出来ました。そして生活における障害を認知症だからと決めつけるのではなく、他の視点からも考えることが大切だと改めて感じました。



私が実習を通して最も感心したことは、病棟の雰囲気が非常に明るく落ち着いた療養環境であり、認知症ケアを行う上で課題とされる「身体拘束」が実習期間中0人だったという事です。患者さんのカンファレンスや話し合いに参加させて頂きましたが、「身体拘束」という言葉自体を誰も発していないのが印象的でした。身体拘束をしない組織的な高いモチベーション意識に加えて、スタッフの皆さんがとても暖かく優しい雰囲気で患者さんの思いを傾聴し、患者さんの置かれている状況に理解を示し共感する姿勢で接していることが、落ち着いた療養環境の提供に繋がっており、患者さんの行動・心理症状が緩和されているのだと思います。



認知症の人が中核症状により、様々な生活上の困難さを抱えている事、‘分からない’状況に混乱し、‘怒られる’ことに怯えるなど、認知症の人が置かれている辛い現状を学ぶ事が出来ました。患者さんとの関わりを通して、行動には必ず意味があるということを実感でき、困っていることを見出すことが大切であると学びました。認知症の人をよく知り、思いに耳を傾け、行動の意味を理解し、居心地の良い環境を整えられるよう支援していきたいと思っています。



研修の最終日には、「認知症の人のよい状態を作り出すケア」の勉強会として、寸劇をしていただきました。とても分かり易く、興味深い内容でした。実習生の皆さん、5週間お疲れさまでした。



## 講演会報告



左より、伊藤院長、高嶋看護部長、岡野先生

平成30年10月20日(土)に、福井県生活学習館（ユー・アイふくい）、多目的ホールにおいて、福井県立すこやかシルバー病院講演会が開催されました。映画、ドラマ、舞台化された『ペコロスの母に会いに行く』の原作者で漫画家、認知症介護経験者の岡野雄一先生を講師に迎え、「ペコロスの母に会いに行く～認知症の母から教わったこと～」をテーマにご講演いただきました。

講演では、認知症の母に少しでも長生きしてほしいという思いから、胃ろうを選択したこと。その一方で、排泄の失敗があると怒りの感情が湧き上がってきたことなどをお話し頂きました。また、介護の手を少し抜くこと（プチ親不孝）で、介護を長続きさせることが出来るといった介護者の視点からのお話をして頂きました。

アンケート結果では、現在介護されている方は同じような状況の話を聞け励まされた、以前から『ペコロスの母に会いに行く』を知っていた方は、原作者から直接お話を聞くことができ良かった。明日からも介護を頑張りたいという感想が多くみられました。

多くの方にご参加いただいたことに、心よりお礼申し上げます。

現在、来年度の講演会の準備を進めております。来年も皆様のご参加、お待ちしております。

## 病院(デイ・ケア)見学会



平成30年9月19日(水)、10月9日(火)当院において、福井市（清水地区、社地区、清明地区）、越前町、鯖江市の地域包括支援センターおよび居宅介護支援センターのスタッフの方を対象に、当院をより多くの方々にご理解いただこうと病院見学会を行いました。まず、病院の概要、精神科デイ・ケアの利用案内等説明を行い、実際のデイ・ケアでの活動風景を見学していただきました。その後、意見交換会を行い、日頃から疑問に思われていることや当院に対してのご意見をいただきました。デイ・ケア利用を拒否されている方の対応や、キーパーソンのない独居の方の外来受診についての質問等があり、参加された方々からは『主治医、病院との連携、システム等よく理解できた』や『デイ・ケアを見学して、イメージとは違みなさん楽しそうに笑っていて驚いた』など、当院に対して理解していただいた様子でした。

これを機に、顔の見える関係づくり、病院見学を通しての相互理解、意見交換の場をつくりながらよりよい連携、地域の中で頼りになる病院を目指していきたいと思っております。今後も、施設の方を対象にこのような見学会を行っていく予定ですのでお気軽にご参加ください。





# 平成30年度【2月～3月】 福井県立すこやかシルバー病院研修案内

## 一般の方を対象にした研修

研修場所／福井県立すこやかシルバー病院 2階会議室

一般研修はお電話でお申込みできます。

お名前（フルネーム、漢字）、連絡先、参加希望研修名をお伝えください。

**参加費  
無料**

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	定員
心も体も元気に健康に ～認知症の理解、予防、支援～	平成31年 2月22日(金)	13時30分～15時	●認知症の危険因子 ●脳を鍛える対策 ●心と体を元気にする活動、実演	松間香織作業療法士	50名
認知症の基礎知識と対応	平成31年 3月8日(金)	13時30分～15時	●認知症の症状 ●認知症高齢者の介護のポイント	清水宏隆看護師	50名
認知症に関する制度と相談窓口	平成31年 3月15日(金)	13時30分～15時	●介護保険制度について ●困った時の相談窓口	山下寛子精神保健福祉士	50名
認知症の方の症状悪化の 原因を考える	平成31年 3月22日(金)	13時30分～15時	●認知症の症状悪化の原因として 考えられるポイント	帰山知子看護師長	50名
認知症の方の食事援助	平成31年 3月29日(金)	13時30分～15時	●食事摂取困難な状況と介護 ●食事環境の調整	辻真彰副看護師長	50名

## ケア専門職の方を対象にした研修

研修場所／福井県立すこやかシルバー病院 2階会議室

専門職研修の申込方法は、当院ホームページ「介護教育のご案内」をご参照のうえ  
お申込みください。定員を超える研修が多いため、当院ホームページで申し込み  
状況をご確認ください。

**参加費  
無料**

研修名	開催日	研修時間	主な研修内容	講師	定員
認知症高齢者の せん妄に対するケア	平成31年 2月26日(火)	14時～16時30分	●せん妄の発症因子について ●せん妄予防のためのケアについて ●せん妄発症時のケア、安全、 安楽な環境調整について	河合明泰 認知症看護認定看護師	70名
認知症の方の暴言・暴力、 介護拒否への対応	平成31年 2月28日(木)	14時30分～17時30分	●BPSD（行動・心理症状）の理解 ●BPSD（行動・心理症状）の原因と 理由の観察 ●暴言、暴力、介護拒否に対するケア	NPO法人認知症ケア研究所 統括管理者 高橋克佳氏	70名
認知症の方との コミュニケーション	平成31年 3月1日(金)	9時30分～12時30分	●認知症の方の特徴、心理状態 ●認知症の方とのコミュニケーション のポイント	NPO法人認知症ケア研究所 統括管理者 高橋克佳氏	70名
高齢者に起こりやすい 認知症に類似する病態	平成31年 3月5日(火)	14時～15時30分	●うつ状態、せん妄、てんかん、妄想性 障害の症状、治療	村田憲治診療部長(医師)	70名
認知症の症状を評価するための 心理検査	平成31年 3月12日(火)	14時～16時30分	●改訂長谷川式簡易知能評価 スケール、MMSE、ADAS、 WMS-R、リバーミード行動記憶検査 の検査内容、判定法	平木聡深臨床心理士	70名
高齢のうつ病の方、 眠れない方のケア	平成31年 3月27日(木)	14時～17時	●高齢者のうつ病の症状とケア、 アパシーとの相違点 ●睡眠障害の種類、睡眠のメカニズム、 眠れない方へのケア	福井県立病院 精神看護専門看護師 山口達也氏	70名

来年度の研修については、リニューアルライフすこやか春号に掲載予定です。  
当院ホームページ（介護教育のご案内）でもご確認いただけます。

お問合せ／福井県立すこやかシルバー病院 介護教育部 TEL (0776) 98-2700